



鳥取環境大学生による 県内自然エネルギー 放浪記



木質バイオマス 株式会社オロチ

株式会社オロチでは、木を桂向きの要領で一枚の単板にした後、重ねて圧着することによって、依頼者の要求するサイズや強度にぴったりの木材(LVL(Laminated Veneer Lumber))を提供しています。この技術をといいます。

木を加工する際、バイオマスエネルギーは活躍します。

剥き肌をキレイにするために木を蒸したり、木を乾かすためのボイラー燃料をすべて工場が出た端材の木質バイオマスエネルギーで賄っています。その結果、なんと年間6,100トンものCO₂の排出削減に成功しているというのです。この事業のノウハウが普及すれば鳥取県の林業が活性化し、森林の保全につながるはずです!!

燃料になる端材の山
(株式会社オロチ)



水力発電

袋川発電所

水力発電に必要な水は循環し続け、なくなることはありません。また、発電する際にCO₂を排出しないので、クリーンなエネルギーとして広く知られています。

鳥取県は地理的に水力発電が向いているといわれており、実際に県内で作られているエネルギーの約77%が水力発電です。エネルギーの地産地消の大切な担い手となる施設の一つが、この袋川発電所です。

袋川発電所では、一般家庭1,400戸分の電気を発

水力発電機
(袋川発電所)



今回は「鳥取環境大学生と行く夏休み自由研究自然エネルギーツアーinとっとり」に参加し、施設見学を通して気になった3つの自然エネルギーとそれを扱う施設を紹介します!!

太陽光発電

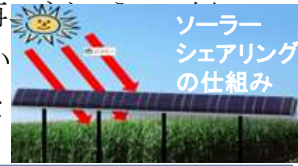
株式会社エナテクス 北栄高千穂太陽光発電所

鳥取県は遊休地が多く、大規模な太陽光発電に適しているとのことで、その土地を利用してメガソーラー事業を展開しているのが株式会社エナテクスです。

さらにソーラーシェアリングを用いて、太陽の光を農作物と共有しながら太陽光発電を行おうとしています。この技術で、日本の総電力量の30%程をまかなえるというデータもあります。エナテクスでは、日本で初めてメガ(1000kw)以上のシェアリング事業を行うそうです。「日本初」が鳥取県から生まれたことは誇らしいことです!この先駆的な事業が広まれば、農業と再面で鳥取らしい発展ができると思います。



(株式会社エナテクス)



化石エネルギーが枯渇するのは時間的问题であり、早急に自然エネルギーの時代にしなければなりません。鳥取県は自然エネルギーが豊富な地域であり、またそのために使える土地も充分にあることが学べました。目指せ、水と緑の自然エネルギーのオアシス、鳥取!! 鳥取環境大学「地球環境を考える会」寺本 有希



鳥取県地球温暖化防止活動推進センターは、県内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることで低炭素社会をめざすことを目的に活動するセンターです。鳥取環境大学の教員や学生、市民によるNPO法人が運営しています。2010年6月に鳥取県知事より指定され、鳥取環境大学との連携協定のもと、鳥取環境大学に拠点を置き、活動を始めました。鳥取県地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国や県、県内外の様々な団体や個人の会員の皆様などのご支援によって支えられています。